

子ども会議を

ふり返る

2

リレーインタビュー

―世話人を務めた分科会「子どもと貧困・格差社会」には県内外から多くの人が参加した。手応えは。

貧困から救う計画必要

子どもたちの貧困の問題を真剣に討議した。現場で子どもにしっかりと向き合っている教員や児童福祉の関係者が発表してくれたことも大きかった。沖繩は戦後ずっと貧困を抱え続けているが、60年以上たった今も何も変わっていない。報告者やフロアの意見を聞く、むしろ貧困の状態はさらに深刻化

してきたため、子どもたちの問題がなおざりにされてきた。このため、残念ながら県は真剣に子どもの問題を政策として取り上げてこなかった。県も財政難だが、県民所得がずっと最低というのは大問題。県民が本気になって実効性のある「沖繩子ども振興計画」をつくって、国家プロジェクトで子どもたちを支える必要がある。国も責任を伴う。子どもは、沖繩、日本の大事な財産だ。

している。そういう子どもたちに向き合う現場の人たちは疲弊し、バーニアウト寸前。貧困の実態をもっと県民に知らせなければいけない。それだけ事態は深刻だ。

―分科会では、児童福祉行政の貧困も取り上げた。

また、「振興計画」で大切なのは、現場の意見を反映させること。子どもたちの問題をつぶさに見ている人たちの意見を反映した振興計画をつくってほしい。今こそ「目覚める」時。真剣に子どもの問題に目を向けなければならぬ。

沖繩は、米軍基地問題に翻弄ほんごうされ続

(聞き手・嘉数よしの)



元児童相談所長
山内優子さん